

進捗報告書（実行団体）

事業名:	少数言語による災害情報発信事業
資金分配団体:	公益財団法人佐賀未来創造基金
実行団体名:	一般社団法人ユニバーサル人材開発研究所
実施時期:	2020年12月～2021年11月
事業対象地域:	佐賀県
事業対象者:	佐賀県内に住む外国人住民

Version 1.0

日付: 2021年5月18日

I. 事業概要

事業概要
現在、タイ人グループである「サワディー佐賀」では、コロナ情報や行政情報をタイ語で発信しており、タイをモデルにミャンマーとスリランカに横展開する。ただ、外国人に「災害」を前面に出したアプローチは敬遠されがちであることから、まずは文化理解講座を通じてキーマンを募り、グループを設立する。 具体的には、日本語に長けた両国出身者に委託してコロナ関連情報を緊急支援として発信することと並行し、文化理解講座で参加者の両国出身者や日本人のキーマンを獲得。そのメンバーでSNSグループをつくり、災害時情報発信システム（情報発信マニュアル）を確立する。また、NPOなどと提携し、多文化共生セミナーや防災訓練も実施する。

II. 進捗報告の概要

総括
コロナ禍で対面型交流が制限される中、ミャンマー、スリランカともに、SNSでのグループをつくり、コロナ・災害情報の発信ができたことが中期までの成果である。メディアにも計4回紹介。ミャンマーに関しては、さらに母国で政変が起きるなどしたが、その佐賀で暮らしへの影響を考える生活相談会を実施できた。スリランカは、連携先との調整遅れや感染拡大によりイベントは開けてないが、災害情報発信体制を整えられた。

III. 活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
①緊急支援としてコロナ関連の情報発信ができていく（SNSで10回以上のシェア）。 ②両国の文化理解講座出身者が集えるイベントが開催されている（各回20人以上の参加者）。 ③2か国のSNSグループが立ち上がっている（在住数の30%以上の参加者）。 ④母語別の災害時情報発信マニュアル（もしくはコロナ関連情報発信）ができていく（在住数30%以上へのマニュアル配布）。	①SNSグループ（ミャンマーはMessenger、スリランカはLINE）で翻訳・ダブルチェックし、Facebookページもつくって発信している。ミャンマーは510人がフォローしてくれ、1月8日投稿では182回シェアされ、目標を大きく達成した。スリランカは5月に開設したばかりで、まだシェアされた投稿はゼロ。今後、拡散を呼び掛けていく。 ②ミャンマーについては、政変に伴うオンライン生活相談会（4/24）は30人超のミャンマー人が参加してくれ「多くのミャンマー人とつながることができた」と大変好評だった。一方でスリランカについては、協働するNPO法人愛未来さんとの協議が遅れ、場づくりが遅れている。早い時期にスリランカ人が集うイベントを実施したい。 ③SNSグループは、ミャンマーが現在37人参加。スリランカは15人が参加し、在住数の各約20%が参加してくれている。目標の30%カバーを目指して、場づくりに力を入れる。 ④マニュアルは後期に予定している。③でも言及したように在住数20%とつながれており、配布は難しくないと考える。コロナワクチン情報などへの要望が多く、内容は外国人住民と決定する。

活動	進捗状況	概要
①ミャンマー、スリランカのキーマン探し	ほぼ計画通り	ミャンマーについては、多久市在住のナインさん（在留資格『介護』）がリーダー格に動いてくれている。翻訳者も1人だけでなく複数人が積極的に参加してくれている。スリランカについても、鳥栖市在住のヘーラツツさん（同『永住者』）が翻訳を担当してくれており、ダブルチェックも佐賀大教授が担当。今後、翻訳・チェック者を増やしていきたい。
②緊急支援のコロナ関連情報多言語発信	ほぼ計画通り	ミャンマーでは2021年1月以降、2度の緊急事態宣言に関わることや、佐賀県内のコロナ感染情報などの発信をしており、1月8日投稿の緊急事態宣言については、計182回シェアされ、5963人にリーチした。スリランカは5月にページ開設したばかりで、まだページへのいいね数は25にとどまっており、これからいかに拡散していくかがカギである。
③文化理解講座の企画・開催（1回目）	遅延あり	ミャンマーでは当初、2020年12月に料理教室をする予定が、ミャンマー人の多くが介護福祉士を目指すため、その試験（2021年1月末）のため参加者が少なく延期。その後、コロナ感染拡大により対面型交流はできていなかったが、政変発生を機に4月末にオンラインで生活相談会を実施できた。スリランカに関しては、4月に第1回の集まれる機会をつくる予定だったが、協働先のNPO法人愛未来の都合により延期となった。
④多文化共生セミナーを兼ねた防災訓練の実施	計画通り	こちらは後期に実施予定。佐賀のNPOの集まりである佐賀災害支援プラットフォームなどと連携して実施する予定。
⑤両国のSNSグループの設立	ほぼ計画通り	SNSグループは、ミャンマーがMessenger、スリランカがLINEを活用し、各国のSNS事情に合わせた運用をしている。ミャンマーグループが現在37人参加。スリランカは15人が参加し、在住数の各約20%が参加してくれている。
⑥文化理解講座の企画・開催（2回目）	計画通り	こちらは後期に実施予定。コロナの感染状況などを見ながら、各国出身者が集い、交流する場（対面型、もしくはオンライン）で開催する。
⑦災害時情報発信マニュアルの企画・執筆・納品	計画通り	こちらは災害情報に絞るのではなく、ミャンマー人、スリランカ人からニーズを聞きながら、必要な情報（コロナワクチン情報など）を翻訳していきたい。

IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
<p>○佐賀県在住のミャンマー人とスリランカ人を中心としたSNSグループが設立され、災害情報翻訳のシステムが確立されている。災害情報発信マニュアルも完成している。</p> <p>両国ともSNSグループはすでに設立され、災害情報の発信が始められている。あとは、依頼→翻訳→ダブルチェック→発信の時間をいかに短くできるか（スリランカ人はまだ翻訳者も少なく、タイムラグが発生する）が課題となっている。</p> <p>○宗教や人種、国籍を超えて、人として生きるために必要な情報と、思いやりを分かち合うネットワーク「Saga People Network」の設立に向けた協議が開始されている。</p> <p>現在、コロナ関係の情報をやさしい日本語へ翻訳→タイ、ミャンマー、スリランカの各グループへ拡散→各グループで翻訳という流れができており、Networkへの道筋はできた。他県からのニーズもあり、後期では県単位にこだわらない情報発信を模索したい。</p> <p>○翻訳・通訳の派遣によるソーシャルビジネスの方向性が示されている。</p> <p>翻訳は他県からもニーズが届いており、コロナ禍の災害では県外ボランティアも受け入れられない。こちらも引き続きビジネスモデルの検討を続けたい。</p>

V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	実行団体への助成に充当される費用	¥1,550,000		¥1,550,000	¥1,155,749	75%
	管理的経費	¥300,000		¥300,000	¥250,000	83%
合計		¥1,850,000		¥1,850,000	¥1,405,749	76%
補足説明		<p>予算で計上していた謝金支出について、スリランカが出遅れたため、少し執行が遅れている。モデルとなるタイ同様、ミャンマー、スリランカも翻訳チームを整えられたため、今後、ニーズに応じた翻訳や、災害情報発信マニュアル（コロナ情報）などの翻訳を急ピッチで進めていきたい。また、会計ソフト使用料は、更新時期の関係で後期に支出予定。</p>				

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
<p>ミャンマーについては、2021年2月に起きた政変により、政治的な主張をするためのミャンマー人のグループ（佐賀ミャンマー留学生会）が立ち上がるなどした。そのため、本事業でのグループ化については必要ないかと考えたが、ミャンマー人メンバーとも話し合い、留学生会＝政治的主張をするグループ▽休眠預金活用のグループ＝災害・コロナ情報など安全・安心を届ける一という棲み分けをしようという話になった。また、4月に実施した生活相談会には県外のミャンマー人も参加し、「ぜひ私たちが繋がりたい」というニーズが寄せられた。ミャンマー語のような少数言語は他県ではもちろん行政にも翻訳させておらず、県単位にこだわらず、必要な情報を発信する必要性を感じた。</p> <p>また、コロナ感染拡大により、料理教室はなかなか開催が難しかった。ただ、料理教室は、あくまで両国出身者が集まる「場づくり」のため、より集まりやすい食を考えていたため、文化理解講座や対面型にこだわらず、繋がれる場づくりを後半はより取り入れていきたい。</p>

VII. その他

自由記述
<p>本事業と直接の関係はないが、ミャンマー人の元留学生（現在は介護福祉士として勤務）が末期の肝臓がんになり、その治療費や家族を呼び寄せる渡航費などのクラウドファンディングを留学生会が始められた。ただ、受付先が個人の銀行口座だったため、贈与税の関係などから、注意が必要な点を伝え、別途、任意団体としての銀行口座開設もサポートすることになった。</p> <p>また、今回のコンソーシアムを組むタイ人グループ「サワディー佐賀」が、令和2年度総務省ふるさとづくり大賞（団体表彰）を受賞。タイ文化の発信に加え、タイ語での災害情報発信も評価された点に入っていたことから、外国人グループの有効性について認めてもらうことができた。</p>

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	有	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時、外国人に情報提供を（2020年12月7日佐賀新聞） ・タイの文化や情報発信 サワディー佐賀ふるさとづくり大賞（2021年2月3日西日本新聞）※ミャンマー、スリランカグループ設立支援にも言及 ・佐賀市のNPO ミャンマー出身者へ生活相談会（2021年4月26日佐賀新聞） ・ピープル 平和な未来への懸け橋に（2021年5月16日）※リーダー格のナインさん特集
広報制作物等	有	<p>ミャンマー人グループ https://www.facebook.com/myanmar.group.saga</p> <p>スリランカ人グループ https://www.facebook.com/srilankasaga</p>
報告書等	無	

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	「特別の利害関係を有する場合の決議からの除外」については規定に定めていないため、別途、「ガバナンス・コンプライアンス整備に向けた基本規程」として盛り込む予定。
2. 内部通報制度は整備されていますか。	いいえ	現在、ひな形を元に「ガバナンス・コンプライアンス整備に向けた基本規程」の制定を目指しており、事務局で規定案を作成次第、理事会へ諮る予定。
3. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	いいえ	現在、ひな形を元に「ガバナンス・コンプライアンス整備に向けた基本規程」の制定を目指しており、事務局で規定案を作成次第、理事会へ諮る予定。
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。	いいえ	現在、ひな形を元に「ガバナンス・コンプライアンス整備に向けた基本規程」の制定を目指しており、事務局で規定案を作成次第、理事会へ諮る予定。
5. コンプライアンス委員会は定期的を開催されていますか。	いいえ	現在、ひな形を元に「ガバナンス・コンプライアンス整備に向けた基本規程」の制定を目指しており、事務局で規定案を作成次第、理事会へ諮る予定。